【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成23年8月18日(2011.8.18)

【公開番号】特開2009-238255(P2009-238255A)
【公開日】平成21年10月15日(2009.10.15)
【年通号数】公開・登録公報2009-041
【出願番号】特願2009-173233(P2009-173233)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　17/28　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　17/28　　Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成23年7月4日(2011.7.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】普遍言語による表現をコンピュータにより生成するための変換規則とプログラムとを記録した記録媒体
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
次に、番号３では、名詞句に相当するＮＰがＤＥＴと結合する関係にあることを示している。番号４では、他動詞に相当するＶＴが、ＶＴＳＴＭとＥＮＤＩＮＧと結合する関係にあることを示している。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
保存処理部４００は、演算装置１０において処理された結果を記憶装置４０に記憶させる処理を行う。この処理は、演算装置１０により行われ、記憶装置４０がこの処理に応答して演算装置から出力されるデータを記憶する。データは、必要に応じて読み出される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
コンピュータによって取り扱うことができ、かつ、他の言語への変換の基礎とすることができる普遍言語による表現の生成をコンピュータに実行させる際に、自然言語による表現を普遍言語による表現に変換するために参照される変換規則と、与えられた自然言語に

よる表現を、前記記憶される変換規則を参照して普遍言語による表現に変換処理するプログラムと、を記憶する記録媒体であって、
前記変換規則として、
自然言語を構成する自然言語要素について、それぞれが有する情報に対応する、普遍言語を構成する普遍言語要素で定義した普遍語辞書と、
自然言語の文構造に対応して配列される前記普遍言語要素の結合関係を規定すると共に、結合関係を二つの普遍言語要素とそれらが特定の関係にあることを示す関係子とを含む二項関係で表記するための書替規則とを有し、
前記普遍語辞書には、自然言語の構成要素に対応する普遍言語が、
Ｘ（“Ｙ”），Ｚ
の形式で記録され、
Ｘには、自然言語の構成要素が表記され、Ｙには、前記Ｘに表記される構成要素が表す意味を特定する情報、および、前記Ｘに表記される構成要素についての評価を特定する情報のうち、少なくとも一方がそれぞれ普遍言語要素で表記され、Ｚには、前記Ｘに表記される構成要素が文の要素のいずれに相当するかを示す文要素記号が付記され、
前記プログラムは、与えられた自然言語による表現について、当該自然言語に対応する普遍語辞書を参照して、当該自然語表現を構成する構成要素を、前記普遍語辞書における対応する普遍言語要素に書き替える処理と、書き替えられた複数の普遍言語要素について、その配列に従って前記書替規則を適用して結合させ、かつ、前記二項関係で表記するための規則に従って、二項関係で表記される普遍言語による表現を生成する処理と、を前記コンピュータに行わせることを特徴とする、変換規則とプログラムとを記録した記録した記録媒体。
【請求項２】
請求項１に記載の記録媒体において、
前記普遍言語要素を構成する普遍語は、
それを表す文字列と、
当該普遍語について、１以上の束縛が存在する場合には、それぞれ普遍言語で定義される１以上の束縛を併記した束縛リストと、
当該普遍語を定義することに他の１以上の普遍語が用いられる場合には、その普遍語を識別する普遍語ＩＤと、
当該普遍語について１以上の属性が特定されている場合には、それぞれ普遍言語で定義される１以上の属性を併記した属性リストとで定義され、次の形式で記録されていることを特徴とする記録媒体。
＜普遍語＞：：＝ ＜見出し＞［＜束縛リスト＞］
［“：”＜普遍語ＩＤ＞］［“．”＜属性リスト＞］
ここで、：：＝ は、…が…と定義されることを表す。
［ ］ は、任意的に追加可能な要素を示す。
“ ” は、文字・記号が入ることを示す。
＜ｘｘｘ＞は、変数名である。
＜見出し＞は、文字列で構成される。
【請求項３】
請求項２に記載の記録媒体において、
前記普遍語の定義に用いられる束縛リストは、次式の形式を有することを特徴とする記録媒体。
＜束縛リスト＞：：＝“（”＜束縛＞［“，”＜束縛＞］…“）”
ここで、…は、そのものが１以上出現することを意味する。
【請求項４】
請求項３に記載の記録媒体において、
前記束縛リストに挙げられる束縛は、次の形式で定義されることを特徴とする記録媒体。

＜束縛＞：：＝＜関係子＞｛“＞”｜“＜”｝＜普遍語＞［＜束縛リスト＞］｜
＜関係子＞｛“＞”｜“＜”｝＜普遍語＞［＜束縛リスト＞］
［｛“＞”｜“＜”｝＜普遍語＞［＜束縛リスト＞］］…
ここで、｜ は、離接、“または”を表す。
｛｝ は、選択要素を示す。

【請求項５】
請求項２に記載の記録媒体において、
前記普遍語の定義に用いられる属性リストは、次の形式を有することを特徴とする記録媒体。
＜属性リスト＞：：＝＜属性子＞［“．”＜属性子＞］…

【請求項６】
請求項１から５のいずれか一項に記載の記録媒体において、
変換規則は、自然言語による表現と、コンピュータによって扱うことができる普遍言語による表現との間で相互に書き替えを行うために参照されるものであることを特徴とする記録媒体。